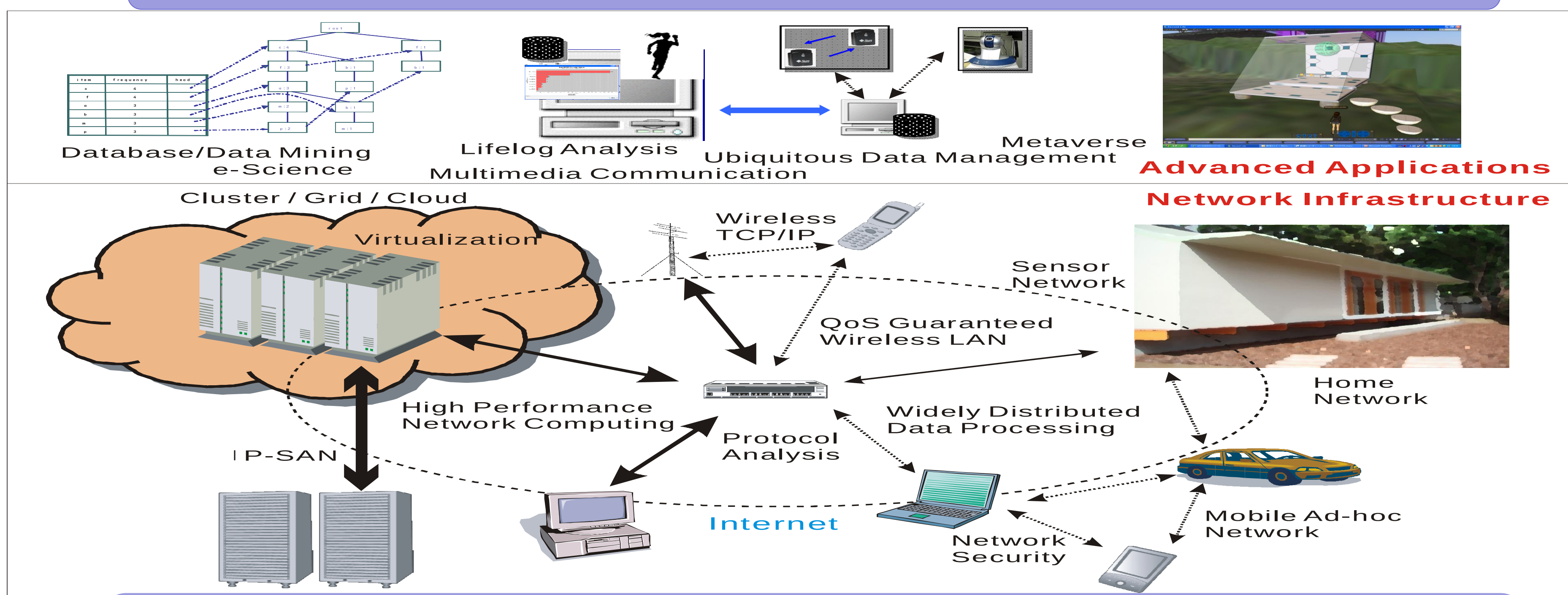


小口研究室 研究紹介 (2024年度)

(お茶の水女子大学理学部情報科学科)

次世代ネットワークコンピューティング基盤と先進的アプリケーション



◆研究テーマ: ネットワークコンピューティング・ミドルウェア

- 多種多様な通信・計算機器が複雑に結びついて情報化社会のシステムを形成
- 次世代ネットワークコンピューティング基盤に焦点を当て、先進的アプリケーションそれを支えるミドルウェアを研究

シングルボードコンピュータを用いたトラス上の完全準同型暗号におけるクライアント側演算の効率化 (研究担当: 松本 菜倫)

背景: FHEによるSBCのデータ活用

- 完全準同型暗号 (以下 FHE) はシングルボードコンピュータ (以下 SBC) で収集した機微な情報を含むデータをクラウドサーバ上で保護しながら統計処理や機械学習を実行可能な技術。
- TFHE スキームは準同型 NAND 演算が可能で、最小値・最大値・比較演算等のどんな演算も可能。→ 暗号化DBクエリ実行・機械学習に適している。
- TFHEではLWE暗号化が必要なので、RLWE暗号化よりも暗号化の効率は悪く暗号文サイズが大きい。→ SBCの計算負荷・通信コスト大

FHEで扱う(Ring) Learning With Error暗号文

- LWE: 1bitずつ暗号化。** 秘密鍵をベクトル $\mathbf{s} = (s_0, \dots, s_{n-1}) \in \{0, 1\}^n$, $a_i \in \mathbb{Z}_q$ は一様分布, $e \in \mathbb{Z}_q$ は正規分布に従う乱数として,
$$(a_0, \dots, a_{n-1}, b) \in LWE_{\mathbf{s}, \sigma}(\Delta m) \subseteq \mathbb{Z}_q^{n+1}, \text{ where } b = \sum_{i=0}^{n-1} a_i \cdot s_i + \Delta m + e$$
- RLWE: Nbitまとめて暗号化。** 秘密鍵を係数が $\{0, 1\}$ の多項式 $S \in \mathcal{R}$, $A \in \mathcal{R}_q$ 一様分布に従う乱数, $E \in \mathbb{Z}_q$ は正規分布に従う乱数として,
 $(A, B) \in RLWE_{S, \sigma}(\Delta m) \subseteq \mathcal{R}_q^2, \text{ where } B = A \cdot S + \Delta m + E \in \mathcal{R}_q$

提案: TFHE-SBCライブラリ

- 計算資源の限られたSBC 向けのTFHEライブラリ **TFHE-SBC** を提案。
- Raspberry Piの中で小型・低電力・低価格な Raspberry Pi Zero 2Wを対象。
- 代表的なTFHEのライブラリのTFHEppをベースとして高速化。
- SBCに適した乱数生成や多項式乗算を検討。

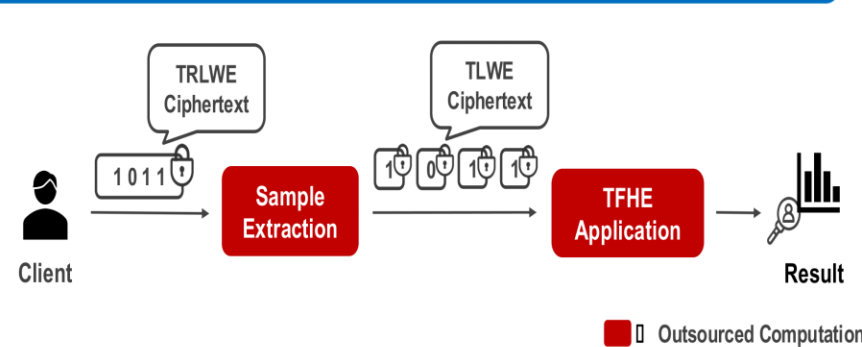
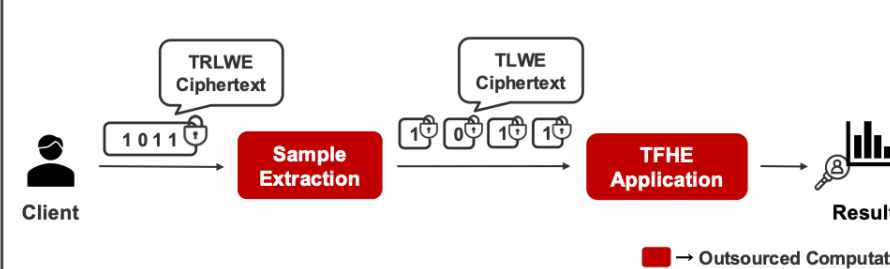


図1: TFHE-SBCによるTFHE暗号文の収集

TFHE-SBCにおける最適化

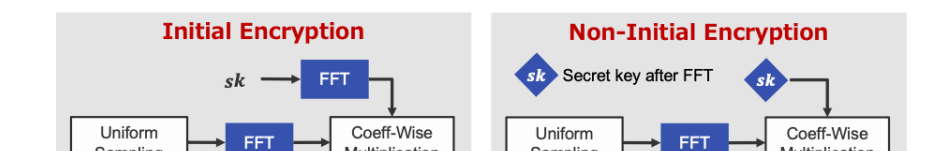
- 最適化1:** クライアントでのRLWE暗号化の利用
クライアントがRLWE暗号化し、サーバサイドでRLWE→LWEへスイッチすることで高速化・暗号文を小さくする



- 最適化2:** ハードウェア依存でない擬似乱数生成
AESアクセラレータなどを必要としない擬似乱数生成のソフトウェア実装

- 最適化3:** 正規乱数生成アルゴリズムの改善
TFHEppライブラリではPolar法による正規乱数生成を採用→ Polar法は内部の一樣乱数生成が平均1.27回必要
TFHE-SBCではZiggurat法を採用
→ 一樣乱数生成が平均1.01回で効率的

- 最適化4:** 多項式乗算中のメモリ再利用
複数回の暗号化実行時には再サンプリングが必要
→ 一樣乱数のみFFTを実行し、秘密鍵のFFT実行は1度だけ行う



評価

実験設定

- LWE・RLWE暗号文のベクトル・多項式の長さは1024. Raspberry Pi Zero 2Wで評価。
- TFHE-SBCはSBC向けに最適化したRLWE暗号化, TFHEppはLWE暗号化の値。

評価結果 (表1)

- 暗号化速度は**最大2490倍高速化**
- 通信コストは**1/512に低減**
- エネルギー消費量は**最大2004倍効率化**

表1: TFHE暗号化・暗号文サイズの評価

	TFHE-SBC	TFHEpp
Encryption Time [ms]	3.1	7705.6
Ciphertext Size [KiB]	1 ×	2486 ×
Memory [KiB]	336.2	4297.7
Energy [mJ]	5.0	10017.3

IoT通信における属性ベース暗号の活用に向けた検討 (研究担当: 佐々木 怜名)

背景

- IoTシステムとセキュリティ
- 多数のIoTデバイスを含むシステムの登場^[1]
- TopicベースのPublisher/Subscriber通信モデルが一般的
- Publisher/Subscriber通信セキュリティ
- Broker上・通信路上における秘密性の高いデータ保護が必要^[2]
- TLSを用いた通信路上のデータ保護
- Brokerは攻撃を受けるリスクが上昇^[3,4]
- SubscriberやBrokerへのアクセス制御が必要
- IoTデバイス上でABE処理の実用性の評価^[5-7]
- IoTデバイスの高性能化に伴う再評価の必要性

属性ベース暗号

- ABE: Attribute-Based Encryption
- 特定の属性集合や、ポリシーを持つ者のみが復号可能で、アクセス制御機能を持つ
- 第三者鍵生成局が、マスター公開鍵と属性/ポリシーに基づいた秘密鍵を発行
- 属性リスト例: "Female", "nurse", "Birthdate: 10/14/1990"
- Policy例: ("doctor" OR "nurse") AND (Over the age of 30)

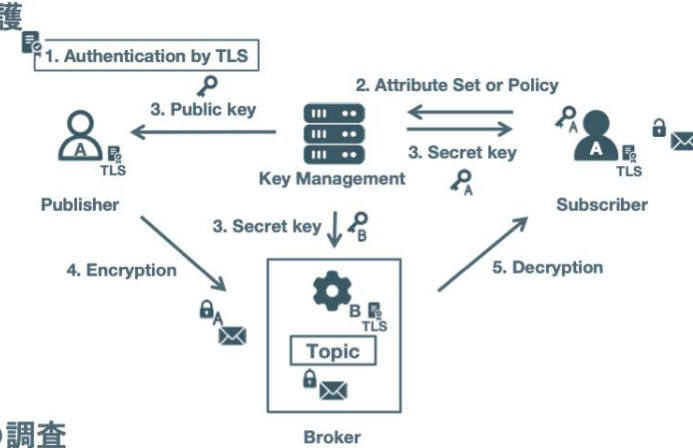


研究目的

TLSを考慮し、リッチなIoTデバイス上におけるABE暗号化処理の実用性を評価

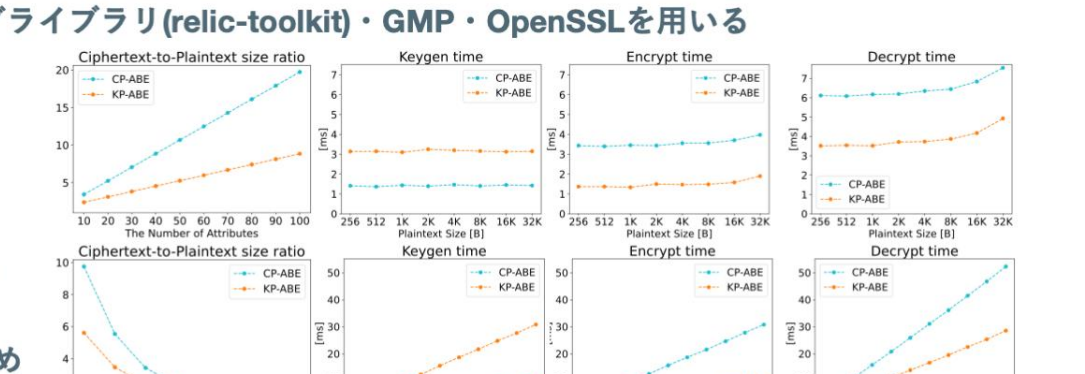
ABEを用いたIoT通信プロトコルの検討

- TLSによる相互認証とABEを用いて、データのアクセス制御と通信路上の保護
- TLS認証のみを行い、TLS recordプロトコルを用いずABE暗号文を送信
- 鍵サーバが公開鍵と、各ユーザが持つ属性リスト・ポリシーに基づいた秘密鍵を配布
- Publisher - Broker間, Broker - Subscriber間でTLS相互認証を行う
- PublisherはBrokerにABE暗号文を送信
- SubscriberはBrokerからtopicデータを受信し、ABEで復号
- 実験
- ABEライブラリ (OpenABE) の性能評価
- TLSによる相互認証のオーバーヘッドの調査
- TLS recordプロトコルとABEによる二重の暗号化処理が通信に与える影響の調査



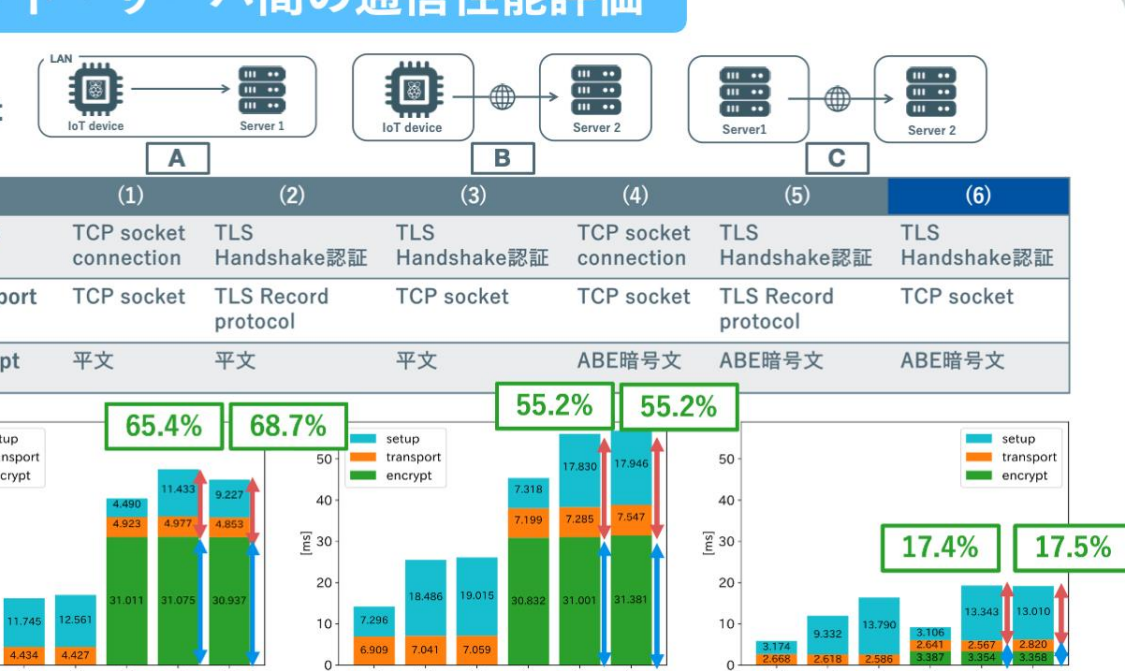
OpenABEの暗号文サイズ/鍵生成時間/暗号化時間/復号時間の計測

- OpenABE^[6]: C/C++実装ライブラリ, ベアリングライブラリ (relic-toolkit)・GMP・OpenSSLを用いる
- 上段: 平文サイズ(256 B~32 KiB), 属性数 = 10
- OpenABEの処理時間は平文サイズに依存しない
- OpenABEでは鍵カプセル化による暗号化・復号処理をするため
- 下段: 平文サイズ = 1 KiB, 属性数(10, 20, ..., 100)
- 属性数とABEの処理時間は比例
- 各属性ごとに指数演算やベアリング演算をするため



TLSとABEを用いたクライアント・サーバ間の通信性能評価

- 6通りの通信手法を比較
- データ送信時間 = setup + transport + encrypt
- transport: TLS暗号化処理よりもレイテンシの影響が大きい
- ABEとTLS recordプロトコルの二重の暗号化処理の通信性能への影響が小さい
- レイテンシが大きい時、TLS認証/送信に時間がかかるため、ABEの暗号化時間は相対的に小さくなる
- Raspberry Pi 4B (B): 55%, Server (C): 17%
- 属性数小(10)/広域通信/リッチデバイス上のABE暗号化処理は実用的



今後の課題

ARM実装の最適化, Revocationに対処できるセキュアなシステムの検討